



神戸ダルクザイレッジは  
薬物・アルコール・ギャンブル問題でお悩みの方々の  
回復を支援します。



一般社団法人  
神戸ダルクザイレッジ



# もし、あなたが……

- ご自身の薬物・アルコール・ギャンブル問題で、相談するところがない
- 家族が依存症で、どうしていいかわからない
- 友達・仕事の関係者・恋人など、身近な人の依存症問題をどうにかしたい
- 薬物で逮捕されている家族や恋人を助けたい
- 相談したいけれど、逮捕されたり、地域や職場にバレるのではないかと不安
- 薬物・ギャンブルをやめたいけれど、やめられない
- 出所後に、薬物を止めるためのプログラムを受けたい
- 回復プログラムを受けたいが、金銭面で不安
- その他、依存症について詳しく知りたい
- 薬物依存症についての講演をしてみたい

ひとつでも、当てはまるものがあるなら、  
私たちが必ず力になれるでしょう。

もちろん、秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。  
それぞれ個人の問題にあつた解決策を、一緒に考えます。





# ここに、回復する場所がある

## 依存症とは

薬物やアルコール・ギャンブルが、やめたくてもやめられなくなり、自分ではどうにもならなくなってしまいう病気です。シンナー・覚せい剤・大麻・MDMA・コカイン・ヘロイン・危険ドラッグなどの違法薬物だけでなく、アルコールでも、また医師が処方する安定剤・睡眠薬、薬局で買える市販薬でも、違法薬物と同じように依存症になります。ギャンブルがやめられなくなることも、依存症の一つです。

## 依存症は回復できる「病気」です

依存症は複雑で深刻な病気です。一人では回復することが非常に困難で、本人の意志や根性、また家族や友達の手助けだけでは止めることが困難です。刑務所・精神病院などへ行っても、止めることはできないことがほとんどです。依存症者の多くがここらの問題を抱え、だれにも相談できずにいます。実際に命を失ってしまうことも少なくありません。

昔は、治療不可能な問題でしたが、今では依存症は回復することが可能な病気になりました。実際には、私を含め、ダルクをきっかけにやめ続けている人は増え続け、もう一度「新しい人生」を歩き始めている人もたくさんいます。

まずは、回復している仲間に出会うことが、始まりです。少しの勇気をふり絞って、ダルクの扉を開けてくれることを、いつでも待っています。私たちは自分たちと同じような、やめたくてもやめられずに苦しむ仲間を全力でサポートしています。回復の中で、もう一度、希望をつかめると約束します。

## ダルクとは

ダルクは Drug Addiction Rehabilitation Center の略称で、薬物依存からのリハビリテーションのための施設です。当事者どうしが助け合って回復を目指すプログラムを行っています。現在では、全国に 60 以上のダルクがあり、入所施設は 100 か所近く、メンバーは約 1000 人以上です。ダルクは組織ではなく、それぞれが独立したものであり、各ダルクの方針により、プログラムは様々です。

「もう薬物を止めることはできない。これ以上人に迷惑をかけることはできないので、僕を殺すか、精神病院に一生閉じ込めてほしい」  
私自身が、だれに助けを求めていいかわからなかったとき、「回復する場所がある」と知ったのは、たまたま見つけた一枚のパンフレットでした。  
かつての私と同じ、まだ苦しんでいる方が、ここで回復のチャンスを手に入れることを、こちらより祈っています。

一般社団法人神戸ダルク ヲイレッツ  
代表理事 梅田靖規

薬物依存症のため、2007年より「茨城ダルク 今日一日ハウス」にてリハビリ開始。同年より茨城ダルク職員として活動。各施設での研修を経て岡山ダルク設立に協力。職員を続けながら大検に合格し、通信大学で心理学を専攻。

2011年より、京都ダルク、木津川ダルクでの非常勤、常勤職員を経たのちに、アリゾナ州にある薬物治療共同施設「アマリ」及びニューメキシコ州で、3ヶ月のトレーニングを経験。

2014年より、「アジア太平洋地域アヘンション研究所」研究員、及び「マリビノプロロジェクト」のチーフとして、マリビノトロネを中心とした貧困層薬物依存回復支援のため、政府機関との連携調整を行うと同時にマリビノ全土のリハビリ施設で共同生活を送り、ピアカウンセラー達とのネットワークを構築する。

2016年7月、一般社団法人神戸ダルク ヲイレッツを開設。依存症者にとっての「新しい人生の再出発点」となり、それぞれの人々が地域に戻っていく基盤づくりをサポートしている。  
愛知県岡崎市出身。精神保健福祉士。双子の二男の父。

